TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

王が来られた　ぶどう園での働き手求む

マタイによる福音書21:33－46

2022年7月9日&10日

余沢　武 牧師

Ⅰ. はじめに

皆さん、こんにちは。これまでに、イエスがエルサレムにメシアとして入城されたのを見てきました。ユダヤ人指導者たちはイエスへの不信感を起こさせようとしたときに、イエスが彼らに「2 人の息子のたとえ」を語りました。今日は、イエスが彼らに語ったもう一つのたとえを見ていきます。まずは、お祈りしましょう。

Ⅱ　ぶどう園での働き手を求めています

(1)　息子が殺される

マタイ 21 章 33 節を開いてください。そこには、こう書かれています。**「もう一つのたとえを聞きなさい。ある家の主人がぶどう園を造り、垣を巡らし、その中に搾り場を掘り、見張りのやぐらを建て、これを農夫たちに貸して旅に出た。」**

最初のたとえと同じく、ここでも「家の主人」は「神」のことです。「ぶどう園」は「神の民のための場所」を表しています。この「ぶどう園」の目的は、神様が私たちに結んでほしいと思われる実を結ぶことなのです。それはすなわち、心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。 あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。

「農夫たち」とは、「ユダヤ人の指導者たちに率いられたユダヤ人」を指します。

34 節から 36 節です。**「収穫の時が近づいたとき、収穫を受け取るために、僕たちを農夫のところへ送った。ところが、農夫たちはその僕たちを捕まえ、一人を袋叩きにし、一人を殺し、一人を石で打ち殺した。また、前よりも多くの僕たちを送ったが、農夫たちは同じ目に遭わせた。」**

「収穫の時」とは、神の民に神を愛し、他者を愛してほしいと神が願われる時のことです。
「僕」とは神のメッセージをリレーのように伝えるため送られた預言者たちを指します。結果はある者は袋叩きにされ、ある者は殺され、ある者は石で打ち殺されました。
これは、イスラエルの歴史でした。何度も何度も神は預言者を送り、神の民に対し、神を愛し他者を愛するように伝えてきました。しかし、人々は預言者に酷い仕打ちをしました。覚えている方もいらっしゃると思いますが、

エリヤの伝道は命がけでした（**列王記第Ⅰ　19 章 3 節**）
エレミヤは打たれました（**エレミヤ書 20 章 2 節**）
ゼカリヤは石で打ち殺されました（**Ⅱ歴代誌 24 章 21 節**）
バプテスマのヨハネは首をはねられました（**マルコによる福音書 6 章 27 節**）
言い伝えによると、イザヤは二つに切り裂かれ、その他の預言者たちも大勢殺されました。

神の言葉を伝えようとすると、人々は腹を立てることがあります。何年か前に、ある男性が彼の家族はクリスチャンだと話してくれました。彼は自分の娘がバプテスマを受けてほしいと願っていました。私は、「もちろんです。でもまずは、娘さんの決意を確認しましょう。」と言いました。彼は、「何の決意ですか？」と聞いたので、私は娘さんが次のことを知っているかと答えました。

以前は罪人であり、「神の言葉」の代わりに彼女「自身の判断」を信頼してきたこと。
イエスが彼女の罪のために死に、よみがえられたこと。
彼女は悔い改め、イエスを「主」として、また「救い主として」受け入れたこと。すなわち、彼女「自身の判断」に頼ることを止め、その代わり「神の言葉」に頼り従うことを決意したこと。

すると彼は言いました「私は娘にそのような決意をさせることはしません。」そして出て行ってしまわれました。
このように、私たちが神の言葉を伝えるとき、人々が腹を立てることがあるのです。そのため、預言者たちは迫害されました。

さて37節から39節です。「そこで最後に、『私の息子なら敬ってくれるだろう』と言って、主人は自分の息子を送った。農夫たちはその息子を見て話し合った。『これは跡取りだ。さあ、殺して、その財産を手に入れよう。』そして、息子を捕まえ、ぶどう園の外に放り出して殺してしまった。」

農夫たちは、「主人」が亡くなり、息子を殺せば、農夫たちが所有権を承継し、「主人」のためにもう実を結ばせなくても良いと考えたのでしょう。

そこでイエスは質問をしました。40節から41節です。「さて、ぶどう園の主人が帰って来たら、この農夫たちをどうするだろうか。」彼らは言った。「その悪人どもをひどい目に遭わせて殺し、ぶどう園は、季節ごとに収穫を納めるほかの農夫たちに貸し出すに違いありません。」

●イエスは、「主人は何をしますか？」と尋ねました。
●ユダヤ人指導者たちは、「神はその悪人どもをひどい目に遭わせて殺し、ぶどう園は、季節ごとに収穫を納めるほかの農夫たちに貸し出すに違いありません。」と答えました。彼らは気づかぬうちに、彼ら自身の「評決」を宣言していたのです。

(2)　隅の親石

42節です。「イエスは言われた。「聖書にこう書いてあるのを、まだ読んだことがないのか。『家を建てる者の捨てた石 これが隅の親石となった。これは主がなさったことで私たちの目には不思議なこと。』」

イエスは、拒否された息子は捨てられた石のようで、この石が神の宮の隅の親石となった、と説明しました。

ソロモンの神殿の時代から始まった慣習があります。神殿に使われる石は、エルサレムに運ばれる前に採石場でカットされてから、集められました。しかし、神殿を建て始めたばかりの頃には、石が間違ったサイズや形で運ばれてきたのです。

仕方なく、建てる者たちはその石を脇に置いておきました。これが「家を建てる者の捨てた石」です。後になり、施工者たちは最も大事な石、つまり神殿の「隅の親石」を見つけることができませんでした。そこで は、彼らは捨てた石が実は神殿の「隅の親石」であったと気づくのです。

古代、石造りの建物が建てられるとき、最も重要なことは基礎である「最も重要な隅の親石」を配置することでした。その隅の親石は、完全な「四角」でかつ「正確」でなくてはなりませんでした。
なぜなら、水平方向も垂直方向も全てにおいて建物に適した角度で配置された石で、他の石と直線状になって置かれるからです。建物全体の形を決める石だからです。

イエスが言われることは「神の神殿にいる人々から拒否された息子が神の新しい神殿の『最も重要な隅の親石』になり、イエスに従う者がこの新しい神殿の『隅の親石』の直線に合致した『その他の石』になる」ということです。」

私たちが自分の罪を悔い改め、イエスが私たちのために死に、よみがえられ、そして彼に従うことを決意するならば、「イエスの御霊」、「聖霊」を受け、「最も重要な隅の親石」であるイエスに霊的に結ばれたものとなり、次の物を受けます。
イエスからの新しい導き
イエスからの新しい願い
イエスからの新しい力
イエスからの完全に新しい命。私たちは、神の神殿として生きるのです。私たちがどこに行こうとも、神を見上げて神を礼拝するのです。私たちは「神の栄光」を現すために「聖霊」の力により、「神の言葉」を実現するのです。

例えば、仕事に行くときは、私たちの願望、欲やエゴを満たすためではなく、礼拝するために行くのです。いじわるな上司にも従います。なぜなら、第Ⅰペテロ第2章18節bには「善良で寛大な主人にだけでなく、気難しい主人にも従いなさい。」とあるからです。つまらない仕事でも、心を込めて仕事をします。なぜなら、エフェソの信徒への手紙第6章7節に「人にではなく主に仕えるように、喜んで仕えなさい。」と書いてあるからです。
お金について心配をしません。なぜならイエスがマタイ第6章33節で「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものはみな添えて与えられる。」と仰っているからです。

ゴシップ、嘘、その他の有害なもの一切を拒絶します。なぜならローマの信徒への手紙 12 章 21 節には「悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい。」とあるからです。私たちはそこにいる人々を愛し、彼らのために祈ります。

私たちは、「隅の親石」となったイエスとともに「神の神殿」になります。私たちがどこに行こうとも、神を礼拝する事が大切です。私たちはぶどう園の実を結ぶための働き手になりました。私たちは、いつでも神のために働くものとされたのです。

ご存知の方もおられると思いますが、牧師になる前、私は獣医として働いていました。日曜日に教会に行きたかったので、日曜日に仕事が休める職場で働きました。そこで働いているときに、私は新生してボーンアゲインクリスチャンとなったのです。

同僚たちに教会に来ないかと誘うようになりましたが、一人も来ませんでした。でも私が誘っていなかった人が一人いたのです。それは勤務担当が日曜日の獣医でした。ある日、彼女は私に教会に行きたいと言いました。私は「ダメ、あなたはダメです！」と言いたかったのですが、そうは言いませんでした。ただ、そう思ったことは事実です。

そのため、私は日曜日を彼女と分け合うことにして、隔週日曜日に働くようにしました。でも、心の中では「日曜日は神を礼拝する日だ」という信念があり、日曜日に働くことに対してとてもきまり悪く感じていました。そこで、日曜日は神を賛美するために仕事をすることにしたのです。

仕事を他の人がイエスを信じることができるようにするためのミッションと捉えることにしたのです。そして、日曜日の賃金を 100%すべて神様に捧げることにしました。皆さんにもそのようにしなさいと言っているわけではありません。しかし、その時は、私は、日曜日の仕事を確実に神への礼拝とするために、そのようにする必要があったのです。

振り返ってみると、日曜日だけでなく毎日の仕事もそのような心持でしなければならなかったと思います。私たちがどこに行こうとも、私たちは神を賛美する神殿であり、ぶどう園で神の実を結ぶ働き手なのです。

しかし、「隅の親石」である「息子」を拒む者たちに対して、43 節から 46 節は、次のように言っています。「だから、言っておくが、神の国はあなたがたから取り上げられ、御国にふさわしい実を結ぶ民に与えられる。この石の上に落ちる者は打ち砕かれ、この石が落ちて来た者は、押し潰される。」祭司長たちとファリサイ派の人々はこのたとえを聞いて、イエスが自分たちのことを言っておられると気付き、イエスを捕らえようとしたが、群衆を恐れた。群衆はイエスを預言者だと思っていたからである。」

イエス、すなわち「隅の親石」を拒絶した人々、つまりイエスの赦しと助けを受け入れなかった人々はつまづき、神を礼拝することや神のために収穫をもたらすことができなくなり、やがて裁かれるのです。

（3） 最後に

このたとえを通して、イエスは神の「救いの計画」を明らかにされました。
彼は「神の息子」として、神を愛し、他者を愛するという「実」を結ぶ人々のために来ました。
「イスラエルの民」は、捧げる「実を生むことなく」、イエスを拒絶して殺しました。
しかし、建てる者たちに見捨てられた「石」のように、イエスはよみがえり、「神の新しい神殿」の「隅の親石」になられました。

イエスのところに来て悔い改める者は、赦し、神の御霊、神の力と神の実を受け取ります。そのような人々は「神の新しい神殿」となり、「神のぶどう園の新しい働き手」となります。「これは主がなさったことで／私たちの目には不思議なこと。」（42 節 b）

今日イエスを受け入れませんか？そうすれば、神のぶどう園での働き手として、神の実を結ぶことができます。どこへ行こうとも、神の神殿として、人々はあなたの中にイエスを見ることができます。今日、ぜひそうしましょう。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg2722jp

★クラス 101
教会員になるためのクラス
9月10日（日）13：30～17：30
https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu



奉仕者募集中！

1．週末礼拝メッセージ翻訳者（数名募集）
1か月半に1度くらいのペース
自宅での作業になります。
英語を日本語へ翻訳します。

2．日本語字幕オペレーター（4名募集）
月1回～各礼拝の時間（特に3時、5時の礼拝募集）の字幕のページをめくる奉仕です。英語を聞いて日本語がどの翻訳部分かわかる程度の英語力が必要です。操作は矢印キーを押すだけの簡単なものです。

連絡先（ひろみ）：
hiromik@tokyobaptist.org